

学会在庫の刊行物について

現在、日本気象学会事務局に下記の刊行物の「気象研究ノート」その他の在庫がありますので、ご希望の方は事務局（〒100 千代田区大手町 1-3-4 気象庁内 電話（212）8341 内線 469）にお申込み下さい。残部の少ないものもありますので早い者勝ちです。

通 巻 (巻号)	掲 載 論 文	頒 布 価 格			送 料
		会 員	団体会員	非会員	
36 (4-2)	数値予報委員会の発足に際して(巻頭言)……………K. S. Barotropic モデルによる数値予報……………大山 勝通 超高層大気物理(上)……………堀内 剛二	140円	170円	190円	20円
38 (5-2)	気象技術の現状を分析せよ(巻頭言)……………J. N. 豪雨予報について……………斎藤 将一 昭和28年6月下旬北部九州の大雨……………竹永 一雄 尾鷲の豪雨機構について……………藤原 玄祥 豪雨文献抄……………瀬下 慶長 豪雨文献抄……………勝井 辰宣 降雨に関する最近の研究……………奥田 稷 レーダによる気象観測……………朝倉 正 レーダによる気象観測……………柳沢 善次	140	170	190	20
39 (5-3)	(凶作) 特集号 日食、月食と凶作との関係について……………高橋浩一郎 長期予報と水稲の豊凶……………小笠原和夫 季節予想に関する2, 3の問題……………守田康太郎 今後の季節予報の研究について……………朝倉 正 大気オゾンと気象現象……………川村 清 調和係数(資料)……………予報研究室 井上甚太郎著気候論について……………竹平町分室 M. I. T. 見学記……………(T. W.) M. I. T. 見学記……………(岸保)	140	170	190	20
45 (6-3)	予報技術に関する2, 3の考察……………斎藤 直輔 中緯度循環試論(紹介)……………倉嶋 厚 気候の永年変化(1)……………荒井 康 小説「椿説弓張月」にみえる台風論……………T. W.	140	170	190	20
50 (7-2)	降水生成論の概観……………今井 一郎 暖かい雨……………駒林 誠 約30kmまでの上層の総観的知見……………荒川 秀俊 発散解析法(1)……………渡辺 次雄	140	170	190	20
52 (7-4)	季節予報について(I)……………高橋浩一郎 渦度を導入した上層風予報……………宇津木政雄	140	170	190	20
60 (9-3)	航空と気象……………東京航空 気象台	360	440	470	60
62 (10-1)	気象学におけるアイトープの役割……………石川 業六 海流理論の概観(Deep Sea Res. 4(3) pp. 149 ~184)……………Henry Stommel	140	170	190	20
63 (10-2)	スペクトルの概念による大洋の波の予報(紹介)……………久保 時夫	150	180	200	20
65 (10-4)	中国をめぐる極東環流について……………田辺 三郎	170	210	230	40

通 卷 (巻号)	掲 載 論 文	領 布 価 格			送 料
		会 員	団 体 会 員	非 会 員	
83 (15-2)	ソ連邦の長期予報事業……………須田 建	170円	210円	220円	40円
	気象英文用例抜萃集 (2)……………渡辺 次雄				
	(農業気象) 特集号				
	農業気象における当面の課題……………三寺 光雄 内嶋善兵衛				
84 (15-3)	農業気象の研究方法及と動向……………小沢 行雄 黒岩 澄雄 三寺 光雄	380	460	500	60
	農業気候の動向……………小沢 行雄 久保 佑雄 山中 罔利				
	農業気象測器……………根本 茂 斉藤 隆幸 高橋 克巳 三寺 光雄				
98	日本気象学会創立60周年記念号 特集 —— 航空気象 ——	450	540	590	60
	ジェット機のための気象解析……………上松 清 杉本 豊				
	航空航法の気象技術……………横関 徹				
	最近の気候学研究特集				
	陸水の気候学……………新井 正				
	地表面の熱収支と水収支……………樞根 勇				
	自然季節の気候学……………前島 郁雄				
	大雨の気候学……………水越 允治				
	東アフリカの赤道偏西風とその気候に及ぼす影響……………中村 和郎				
	日本における中気候・小気候研究の最近の成果……………設楽 寛				
日本の冬季における天気界……………高橋 百之					
100	気候資料と気候図および気候図帳……………土屋 巖	700	890	970	100
	南半球の動気候学の諸問題……………吉野 正敏				
	都市気候—とくに heat island に関する 研究を主として—……………河村 武				
	特集 回顧と抱負 ——戦後20年の時点に立って——				
	気象力学における数値シミュレーション……………新田 尚				
	シンポジウム ——寺田審彦論——				
	環境汚染特集号				
	大気大循環と汚染物質……………菊池 幸雄				
	気候変動の人為的原因 ——主として環境汚染に関連して——……………根本 順吉				
	対流圏の汚染……………川村 清				
103	対流圏の汚染……………川村 清	490	590	640	60
	燃焼による空気成分(酸素と炭酸ガス)の変化……………当倉万寿夫				
	海洋汚染……………杉浦 吉雄				
	人工放射能による大気汚染……………葛城 幸雄				
	放射観測による大気汚染の現状……………藤本 文彦				
	都市汚染に対する大気拡散研究の現状……………伊藤 昭三				
	都市地域大気汚染……………大喜多敏一				
	気象衛星特集号				
	第1部 気象衛星の一般的性質……………小平 信彦				
	第2部 放射測定およびそれによる 気象要素の推定……………嘉納 宗靖				
107	環境汚染特集号	600	720	780	—
	大気大循環と汚染物質……………菊池 幸雄				
111	気候変動の人為的原因 ——主として環境汚染に関連して——……………根本 順吉	460	540	580	—
	対流圏の汚染……………川村 清				

通 巻 (巻号)	掲 載 論 文	領 布 価 格			送 料
		会 員	団体会員	非会員	
115	日本海の気象 日本海における季節風と波……………川鍋 安次 日本海の低気圧について……………和田 徳弘 日本海の気候……………原見 敬二 日本海における気象潮……………谷岡 克己 日本海における熱収支……………当舎万寿夫 日本海上の垂直安定度と降水……………久保田 効 日本海沿岸地方の気象の特徴と問題点……………日本海沿岸 官署の会員	1250円	1720円	1950円	—
116	ライダ (レーザ・レーダ) と気象観測	930	1380	1550	—
117	モンスーンアジアにおける水気候	1150	1680	1900	—
119	都市・建築と気象—シンポジウム(1969, 1972, 1973)から—	1700	2700	3000	—
121	雲物理特集 I 一氷の物性—……………前 晋爾	440	650	730	—
122	雲物理特集 II —雲核・氷晶核— 凝結核と雲および降水の形成……………武田 喬男 雲核の研究……………内田 英治 雲の氷晶化過程と氷晶核……………田中 豊頭 大気中の氷晶核の濃度, 物質および起源……………石坂 隆	970	1500	1700	—
123	雲物理特集 III —雪結晶・あられ・ひょうの生成— 天然雪……………菊地 勝弘 大型低温箱を使った氷晶の研究……………山下 晃 雪結晶の成長に関する実験的研究……………権田 武彦 雪結晶の形を表現する微分方程式……………駒林 誠 雪片の形成……………佐粧 純男 あられ・ひょう—雲粒捕捉過程で成長する 固体降水粒子……………播磨屋敏生	1400	2100	2400	—
124	流れの可視化法 概 説 空気流の可視化法……………坂上 治郎 水流の可視化法……………種子田定俊 追 補 境界層と乱流……………島貫 陸	710	1080	1200	—
125	海陸風と山越え気流 海陸風の現象の概要と問題点……………中山 章 海陸風循環の数値シミュレーション……………菊池 幸雄 おろし風を中心とした山越え気流論……………荒川 正一 山越え気流の力学 (I) ………………大西 外史 山越え気流の力学 (II) ………………古川 武彦	1470	2290	2500	—
126	大気中の内部重力波 内部重力波の理論……………田中 浩 超高層の大気波動……………加藤 進	650	1000	1100	—
127	(大気汚染気象) 特集号 大気中境界層の拡散に関する構造……………横山 長之 大気中のガスや粒子状物質の変遷……………大喜多敏一 光化学大気汚染中のモデル化とその素反応論的基礎……………秋元 肇	870	1300	1500	—

通巻 (巻号)	掲 載 論 文	領 布 価 格			送 料
		会 員	団体会員	非会員	
128	大気汚染物質の分布と気象条件との関係……………福岡 三郎	2560円	3900円	4400円	—
	光化学大気汚染のモデリングとシミュレーション……………木村富士男 討論 (付録), 大気汚染気象用語集……………河村 武				
129	最近の気象学と気象事業の展望 ——気象庁創立100年を記念して—— 磯野謙治, 岸保勘三郎, 毛利圭太郎, 柳田邦男, 真鍋淑郎, 山岬 正紀, 丸山健人, 新田 勳, 浅井富雄, 竹内清秀, 山本義一, 青 木忠生, 木村竜治, 伊藤 宏, 高橋浩一郎, 吉野正敏, 駒林 誠, 堀内剛二, 三崎方郎, 内田英治, 黒岩大助, 小平信彦, 村山信 彦, 立平良三, 河村 武, 谷 信輝	2400	3600	4100	—
	台風特集				
130	第1章 台風の構造と発達のパワー……………山岬 正紀	1300	2000	2200	—
	第2章 熱帯低気圧の発生と台風観測……………井沢 龍夫 第3章 台風の進路とその予報……………門脇俊一郎 野本 真一 第4章 台風災害……………岡村 存 奥田 穰				
131	気象の測定	670	1000	1150	—
	気象測定論……………斉藤 実 風・温度・湿度および乱流輸送量の測定……………文字 信貴 水間 満郎 大気汚染質の測定……………大喜多敏一 川村 清 大気微量成分の分光測定……………小川 利紘 大気電気の測定……………三崎 方郎 雨滴粒径の測定……………後町 幸雄 降雨強度の測定……………当舍万寿夫 地上からの放射測定に基づく 気温の鉛直分布の測定……………嘉納 宗靖				
	スペクトル解析				
	気象要素のスペクトル……………花房 龍男 時空間スペクトル解析法と 大気大循環モデルへの応用……………林 良一				

刊 行 物 の 名 称	発 行 年 月 日	頒 布 価 格	送 料
気象学への手引	1971. 2. 20	150円	120円
地球大気開発計画研究会議 (GARP) 報告	1968. 1.	100	120
新しい気象学 (第2回夏季大学テキスト)	1968. 7.	400	120
〃 (第5回 〃)	1971. 7.	500	120
〃 (第9回 〃)	1975. 7.	1000	—
〃 (第10回 〃)	1976. 7.	1000	—
〃 (第11回 〃)	1977. 7.	1000	—
構造物の耐風性に関する第1回シンポジウム論文集	1970. 5.	1500	—
〃 第2回 〃	1972	2000	—
〃 第3回 〃	1974	2500	—
〃 第4回 〃	1976	3000	—
日本気象学会創立75年記念論文集 (和文編)	1957	500	160

刊 行 物 の 名 称	発 行 年 月 日	頒 布 価 格	送 料
日本気象学会大会予稿集			
昭和37年秋季大会		200円	120円
〃 40年春 〃		200	120
〃 46年秋 〃		550	160
〃 47年春 〃		600	160
〃 47年秋 〃		600	160
〃 51年春 〃		1000	—
〃 51年秋 〃		1000	—
気象英文用例抜萃集	1960	500	120
First Symposium on Wind Effects on Structures in Japan (1970) (Summary of Papers)	1970. 5.	180	120
文部省 学術用語集 (気象学編)	1975. 10.	1200	120
Proceedings of the WMO/IUGG Symposium on Numerical Weather Prediction in Tokyo	1969. 3.	非1400 1000	240
外国文献集			
No. 3 Tropical Cyclone		各1500	実費
No. 6 Cloud Physics Part 1			
No. 10 Radar Meteorology Part 1			
No. 13 Long Range Forecasting			
No. 14 Tropical Meteorology			
No. 15 Dynamic Meteorology Part 1			
No. 16 Dynamic Meteorology Part 2			
No. 18 Upper Atmosphere			
No. 19 Stratospheric Circulation			
No. 20 Micro Meteorology			
No. 21 Convection			
No. 22 Numerical Weather Prediction			
No. 23 Meteorological Statistics			
No. 24 Satellite Meteorology			

==== 支部だより ====

日本気象学会九州支部の歩み

— その 1 —

九州支部幹事 小島隆義

1. 九州支部発足のころ

学会本部の記録によれば、九州支部は昭和28年設立となっている。ところが、支部自体の記録によると昭和29年7月発足となっているので、その間の1年余りはおそらく名目だけの支部だったかもしれない。

“天気”を繰ってみると、昭和30年11月に学会本部は

定款を改正して新発足したとあるので、あるいはこれに関連して支部が発足したのかもしれない。今となっては詳しいことはわからない。

ともかく、全国組織の一環として生まれたものの、東へ行くか西へ進むか、まったくコースも定まらないような状況であった。九州支部は関西支部と同時に生まれた